

## ラジオ「福音の光」説教 「勝利の秘訣～ 敗北からの解放」

ローマ人の信徒への手紙 8 章 3 1 ～ 3 8 節

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

「しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。」（3 7 節、新共同訳）。

皆様おはようございます。私たちの教会では、毎週「聖書の学び」を行っております。その集会の席上で一人の方が「この手紙を書いたパウロという人は強い方なのですね」と語られたのです。この伝道集会に出席された方々の中にも、自分の弱さに気がついて悩んでいる方々がおられるのではないのでしょうか。その人たちにとって、この「勝利の秘訣」という主題があまりにも魅力的であると同時に、自分には縁がないのではないかと思っておられる方々もおられるのではないのでしょうか。

今日「勝利に輝いた生涯を送りたい」と願っていながらも、どんなに自分の弱さ、肉体的だけではなく、精神的にも行き詰まりを覚えてうちひしがれている方々が如何に多いことでしょうか。私自身も慢性腎不全という病気を抱え、人工透析をしている者ですが、身体に或いは精神的に弱さを持ち、また障害を持ち、更にそうした方々と重荷を共に担っておられる方々も多いことを覚えるのです。

しかし、この主題は聖書のお言葉から与えられたものなのですが、聖書中の「輝かしい勝利を収めています」（新共同訳）、を他の訳では「圧倒的な勝利者」（新改訳）、「勝ち得て余りがある」（口語訳）とあり、何れも勝利に輝いた姿が着目されているのです。

この手紙を書いたパウロという人はユダヤ人ですが、ユダヤ教徒である故に、キリスト教徒を迫害してきた人であります。しかし、その迫害の手を伸ばしてダマスコと言うところに出かけている最中に復活されたイエス・キリストに出会い、イエス・キリストによって罪を赦され、新しい生涯に入れられた人であります。そのパウロは本当に強かったから「輝かしい勝利を収めています」と言えたのでしょうか。確かにパウロほどあらゆる面で傑出した人物はいないでしょう。しかし、彼自身は「自分の強さの中に勝利の秘訣がある」と述べてはいないのです。パウロは障害を持っている人なのです。目にか、足にか、他の身体の一部の何処にか分かりませんが、弱さをもっていたのは事実です。彼は何とかしてその弱さから解放されたいと必死に祈ったのです。その時、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」とのみ声を聞いて勝利に導かれたのです。それから、彼はその弱さを受け入れ、自分の弱さを認めるばかりか、むしろその弱さを誇りとする者に変えられたのです（コリント第Ⅱ 1 2 章 9 ～ 1 0 節）。

では「輝かしい勝利を収める者」とされる秘訣は何処にあるのでしょうか。3 7 節に注目しましょう。「しかし、私たちは、私たちを愛してくださる方によって」

(新共同訳)とあります。彼にとって勝利の源は「愛してくださる方」にあると告白しているのです。即ち、「神様に愛されている」事実を認識することに勝利の源泉があるのです。そこで私たちも冒頭の聖書の箇所から「神様の愛」を具体的にどのように現されているかを確認しましょう。

### 1、「私たちの味方となってくくださる」愛(3 1 節)

私たちの傍らに立ち、共にいて守り、助け、保護し、避け所となってくくださるお方が神様なのです(詩篇1 1 8 篇6~7 節)。ヨブは試練の真っ最中に「わたしをあがなう者は生きておられる。…わたしは肉を離れて神を見るであろう。しかもわたしの味方として見るであろう」と告白しております(ヨブ記1 9 章2 5~2 7 節、口語訳)。ここに彼の一縷の望みがあったのです。

### 2、「その御子をさえ惜しまず死に渡された」愛(3 2 節)

私たちを愛して下さる故に最上の贈り物として御子イエス・キリスト様をこの地上に遣わし、十字架の死にあずからせて下さったのです。そして御子と共に神様は全てのものを提供して下さったのです。私たちの一切の必要が十二分に備えられているのです。柘植不知人師は「天国は破産した」とまで言われたのでした。それほどの十分な愛をもって愛されている事実を確認したいのです。

### 3、私たちを「義とし」、私たちのために「執り成してくださる」愛(3 3~3 4 節)

神様は御子イエス・キリストの十字架の死と復活によって贖いの業を完成されたのでした。ですから、自分の罪を悔い改め、イエス・キリストを救い主と信じた者は罪を完全に許され、罪を犯したことの無い者として神様に受け入れられるのです(義認)。また、イエス・キリストは昇天された後、神の右に上げられ、この地上に聖霊を注ぎ、そして執り成しの働きをしておられるのです。

かつてこの地上でペテロのために「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」と語られました。自分の弱さを知らなかったペテロは見事に失敗しました。しかし、失意のどん底の彼を捉えて回復させ、彼を聖霊に満たして豊かに用いられたのはイエス・キリストの愛でした(ルカ2 2 章3 1~3 2 節、他)。また、ステパノが殉教しようとして祈っている時に、神の右に立ち上がっている姿をもって彼にご自身を躪わし、彼を支えられたのでした(使徒7 章5 5~5 6 節)。

聖書を通してイエス・キリストの執り成しの姿が多く浮き彫りにされています。私たちも人々から中傷されたり、非難されたり、様々な困難な状況に立たされる場合も

多いですが、同じ恵みの中に生かされていることを心から感謝し、主に祈り、信頼して歩みたいものです（ヘブル7章24～25節）。

#### 4、決して引き離すことの出来ない愛（35、38～39節）

「患難も、苦しみも、迫害も、飢えも、裸も、危険も、剣も、死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も」キリストと共なる歩みに身を置く者をその愛から引き離せないのです。それほど愛に捉えられている恵みを感謝しましょう。

私たち一人一人、置かれている環境も違い、障害の程度も違い、置かれている立場も、事情境遇も異なります。欠点弱点も多く、失敗しては失意の中に置かれることも多々あります。そうした中でも全てのことを知り、理解し、愛し、執り成して下さる主の愛に捉えられて歩んでいきましょう。それと共に、お互いのためにも覚えて祈りあえる交わりを更に深めさせていただきましょう。